

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200313		
法人名	有限会社 ハート		
事業所名	グループホーム安寿		
所在地	佐賀県唐津市鎮西町高野534-2		
自己評価作成日	平成30年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年2月8日	外部評価確定日	平成30年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の方の要望になるべく応えられるように努力し、又、家族の方が安心出来るような施設を目指しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム安寿は、自然に囲まれた静かな環境の中、平成24年に有料老人ホームと共に開設され、消防訓練や各季節の行事などは合同で行われている。開設時に作成された運営理念を基に、管理者の利用者に対する熱い思いを職員も理解している。離島から入居されている利用者の思いを把握し、船着き場まで一緒に出かけたり、日帰りの離島訪問もできることも伝え利用者の思いに沿った支援が行われている。歳を重ね身体機能の低下で、寝たきりや車イス利用の方には、本人の負担にならないようなるべく離床を促しながら、優しい笑顔で対応した支援が行われている。また、家族との関わりを大切にしている。事業所内で開催する年2回の家族会では、管理者や職員が得意とする手料理で食事を提供し、家族間でも和やかな会話ができるよう配慮している。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員に理念の意味を理解する事から取り組む様にし利用者様の立場になって考える事ができるように努力しています。	開設時に全職員で考え作成された理念は、会議室、リビングに掲示され、毎月行われる会議などで確認しながら意識付けを図っている。理念を理解し、職員の笑顔が利用者との信頼となり、毎日、ゆとりをもって自由に楽しく過ごせる支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に2ヶ月に1回の運営推進会議に参加して頂き2ヶ月間の安寿の取り組みをお伝えしています。	地域の一員として自治会に加入し、年に数回ある集会にも積極的に参加している。その集まりは事業所を認知してもらう良い機会となっている。周囲に民家は少なく、普段の立ち寄りには少ないが、隣接する有料老人と合同で行われる夏祭りなど地域の人を招待し交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加できる時は参加させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行っており、意見交換を行っています。	運営推進会議は2ヶ月毎の第4金曜日に開催されている。行政地区の民生委員、消防、介護相談員、利用者の家族の参加で行われ、日々の活動報告のみならず、他の事業所にも訪れているメンバーから参考になる意見が得られている。議事録もきちんと記載され、事業所内に掲示されている。事業所は家族会と決め食事会を年2回開催し、運営推進会議の意義を伝え参加を依頼している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があれば市役所の担当の方と連絡をとり相談をさせて頂いています。	運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から顔なじみである。毎月の利用者状況など報告し、不明なことがあればいつでも相談ができ、実直に対応してもらえる関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室、玄関の施錠は夜間のみ行っています。	身体拘束に関する指針があり、入居時に説明されている。毎月の職員会議で勉強会も行われ、すべての職員は身体拘束の内容と弊害を理解している。玄関の施錠はなく、見守り、寄り添いながら利用者の安全を確保し、自由な生活ができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修などを用いて全職員に伝達をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人を利用されてある方がおられ、職員会議にて後見人についての勉強会を行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にしっかりと時間をとり説明をし、出来る限り分かりやすく説明を行う様に心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時などで意見などあった際には職員会議などで話し合いを行い反映出来るように心がけています。	家族とのコミュニケーションを大切にし、家族会も兼ねて年2回食事会を行っている。事業所を訪れる家族も多く気軽に意見や要望を出してもらえるよう雰囲気づくりに努め、また事業所内に意見箱を設置している。事業所の外にも苦情や相談窓口があることは、書類にも明記され説明も行っている。出された意見や要望は、職員会議で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議や、食事会を行ったり職員の声に耳を傾けるようにし意見が出た時などは全員で取り組みを行い全員で評価を行う様にしています。	管理者と職員は普段からよく話し、何でも言える関係ができています。管理者は職員の意見を聞くように心がけ、職員は気付いたことは、管理者に伝えるように努めている。月1回の職員会議や食事会などで意見や要望を聞く機会を設け、職員から出された意見や提案は検討し運営に活かせるよう検討がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	色々な相談が出来るように日頃から職員とのコミュニケーションを図るようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外での研修に参加を促したり、職員が講師を務め職員全員がスキルアップするように働きかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外研修などに参加した時などに意見交換、情報交換を実施しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活に慣れて頂ける様に本人の状況に応じて対応するように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時や、担当者会議に来られた時に家族様からの要望などがあった際はCMと相談をしながら要望に応じられるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の状態を職員同士、情報交換を行い必要なサービスがあれば家族様に連絡をしてサービスを行う様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言動などに耳を傾け共感し、一緒に楽しんだり出来るような環境作りを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より入居者様に関わることをお互いに相談し、入居者様と職員だけの事に納めず、入居者様への思いや気持ちを大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月1回手紙を送らせてもらってます。又、固定電話も使用できるように配慮しています。利用者の中には携帯電話をお持ちで利用される方もいます。	利用者との会話の中で出てくる「行きたい場所」に職員は耳を傾け利用者の希望を大切にしている。離島からの利用者は島が見える船着場まで出かけたり、日帰りであれば自宅まで付き添うことも伝えている。またお彼岸にはお寺参りに家族と行かれることもある。携帯電話を持たれている利用者はいつでも、通話できることもあり馴染みの関係は継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して職員が間を取り持って良い関係を続けていけるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のフォロー等引き続き支援に努めるようにしています。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の要望を聞くようにしています。困難な場合は職員で検討しています。	利用者本人の意向を大切に、一人ひとりに応じた支援を心掛けている。管理者は日常会話の大切さを認識しており、日々の関りの中で、隣に寄り添い、ゆったりと話し相手をするのを心掛けている。発語のない利用者には、表情や仕草などから意向をくみ取り把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と会話していき、家族ともコミュニケーションを図り、これまでのその人らしい生活を追及、把握していきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する本人の状態を常に情報交換を実施し見逃さないように努めます。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様の意向や、全スタッフで情報交換を行い介護計画を作成しています。	家族や本人には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。日々の介護記録、職員の情報を合わせ、モニタリングが行われ、現状に即した介護計画が作成されている。状態に変化が生じた場合は、速やかに見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	分かりやすい記録の書き方をするように心がけています。記録を見ながら情報交換を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今1番本人にとって必要なサービスを検討しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面に配慮して、毎日楽しく生活が送れるように心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診があり、家族に状態報告を行っています。	利用者や家族の意向を大切に、事業所の協力医への主治医変更や入居前のかかりつけ医の継続受診を支援している。かかりつけ医の受診は職員が行い、家族から同行の希望があれば事前に連絡し、受診に同行していただく。家族の付き添いがない場合は、受診結果を家族に報告している。協力医は月2回の往診があり、利用者は適切な診療が受けられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常を感じた時は、早めに協力病院に連絡し指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は病院に訪問して、その都度家族に状態報告するようにしています。退院された後のケアも病院と相談するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態を見ながら家族に説明するようにしています。又、家族の要望に応えられるように主治医と相談をしています。	重度化した場合の対応に係る指針があり、契約時に利用者や家族に説明が行われ同意を得ている。これまで複数の看取りの経験がある。利用者の状態に応じて、家族や主治医と何度でも話し合いを持ち、利用者本人や家族が納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の時は近くの看護師に直ぐに連絡するように徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフには会議などで説明をしています。地域の方には、地域行事の時などで話をさせてもらっています。	年2回の消防避難訓練は、消防署の指導の下、また運営推進会議で協力を依頼した地域消防団の協力を得て、隣接する同法人施設と合同で実施されている。夜間を想定した訓練が行われ、利用者も一緒に体験している。原子力発電事故を想定した訓練も行われ、記録も写真とともに記載されている。職員は消火器や火災報知機の使用も熟知しており、非常食の備蓄も整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の声掛けなどは、他の方に聞こえないように耳元で話すようにしています。	個人情報を使用する目的を明確にし契約時に利用者や家族に説明し同意を得ている。毎月発行されるホーム便りに記載される写真などについても家族に説明し承諾を得ている。また排泄介助や入浴介助では、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや、口調に注意し支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいかを聞くように心がけ、いくつかの選択をだし選んだりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室、リビングなど自分のペースで過ごして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選ばれる利用者もおられます。又、季節感に配慮出来るように声掛けを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を尋ねています。色どりや、盛り付け、季節の野菜などを取り入れています。	献立は、その日の当番の職員が利用者に希望を聞きながら、また手元にある食材で柔軟に決められ調理されている。料理の下ごしらえやお盆拭きなど、利用者ができることは職員が見守りながら支援している。また職員と一緒に作る手作りデザートは美味しく、特にケーキは利用者や家族にも評判がよく食べる楽しみとなっている。歳を重ね重度化した利用者には、職員が食べやすいように食事の形態を変え、声をかけながらゆっくり介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを毎日行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない部分のみお手伝いしています。状態によっては、訪問歯科をお願いしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを見ながら案内行っています。状態によっては、オムツ、尿取りパットを使用しています。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握し昼夜ともにトイレでの排泄支援を行っている。時間毎の排泄誘導でおむつ使用から布製のパンツやリハビリパンツで対応できたこともあり、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂って頂くように声掛け行っています。状態によっては医者に相談したり処方分の下剤服用して対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の方に午前、午後の入浴どちらがいいか声掛け行い選んでもらっています。	入浴は週2回を基本とし、利用者は午前か午後の選択をしている。身体機能が低下した利用者も負担がかからないように配慮し、複数の職員で対応している。入浴を拒む利用者には、無理強いをせず日にちを変えたり、清拭を行い支援している。脱衣場はエアコンで室温設定されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者の体調に合わせて休息をとったりしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬剤師より説明を受けています。何か変化があればすぐに医者に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設行事に近くの保育園から慰問に来ていただいています。又洗濯物たたみ等、自分の役割として積極的に行ってる利用者の方もおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気が良い日は施設周辺の散歩に出掛けたり、ドライブに出掛けたりしています。	歳を重ねるごとに身体機能の低下で、外出は少なくなったが、天候や体調をみながら、周辺の散歩も含めできるだけ戸外に出るよう努めている。また季節に合った花見ドライブなど、利用者の体調に合わせて支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望で管理が可能であれば所持できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ってある利用者がおられる為、自由に電話をされたり、又家族様には事前に了承を得ていつでもやり取りできるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、ソファを置いてゆっくり過ごせる様に確保しています。又、玄関やリビングには季節感がある飾りをしています。	リビングは、円形テーブルが設置されている。壁際のソファでは利用者は思い思いに過ごされている。空気清浄器を活用して不快な臭いがこもらないように配慮され、居心地良く過ごすための環境作りがなされている。対面キッチンでは、職員が調理するまな板の音や、匂いも五感を刺激する。トイレや浴室も掃除もできており、嫌な臭いもない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分だけの時間を過ごして頂ける様に、廊下のあちこちに椅子を置いて自由に座ったり出来るようにセッティングしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今現在、持ち込みの方はいませんが、契約時に持ち込みもできます。とお話しはしています。	入居時に馴染みの品の持ち込みを勧めており、その人らしい居室づくりがなされている。歳を重ね、体力低下となり、居室内で過ごすことも多くなった利用者には身体の向きに合わせ、写真など見やすいところに飾ったり、加湿器など設置し居心地よく過ごせるよう支援している。家族の希望があれば宿泊もできる。利用者は担当制となっており、室内の掃除も職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、各部屋には表札をつけています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない